

# 会 報 ≪第394号特別編≫

## 第467回(平成30年7月)月例会報告

次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会



発行日 平成30年8月1日

テーマ 国家戦略から地域戦略へ  
～全員参加のふるさとづくり～

講師 南あわじ市長 守本 憲弘氏

開催日時 平成30年7月12日(木) 11時～13時  
会場 神戸三宮東急REIホテル

はじめに	2頁	3 南あわじ市で進める地域戦略(基本理念)	3頁
1 中央集権国家への道(1)	2頁	3 南あわじ市で進める地域戦略(事例1)	4頁
1 中央集権国家への道(2)	2頁	3 南あわじ市で進める地域戦略(事例2)	4頁
2 地方分権論台頭の背景(1)	3頁	3 南あわじ市で進める地域戦略(事例3)	4頁
2 地方分権論台頭の背景(1)	3頁	3 南あわじ市で進める地域戦略(事例4)	4頁
		3 南あわじ市で進める地域戦略(事例5)	5頁
		4 建築関係者への期待	5頁
講演会紹介画像	6～7頁	(市内高齢化率と高齢者就労状況:事例1関係、課題解決型産業育成:事例2関係、教育の充実:事例3関係、伝統産業、観光、特産品)	
講演会会場写真	8頁	おわりに	5頁



世界遺産登録を目指す  
「鳴門の渦潮」

テーマ 国家戦略から地域戦略へ  
～全員参加のふるさとづくり～  
講師 南あわじ市長 守本 憲弘氏



瀬戸本会長挨拶

守本市長さんには本当にお忙しい中を貴重なお話をいただくことになりありがとうございます。

今朝も東京から直接お越しになられたところでございます。

皆さんもご存知のとおり、南あわじは食べ物おいしい、海辺の景色はきれいなところですよ。そして、私は津井とは縁があり、いぶし銀の瓦は建築にもよく使わせてもらいますが、趣味の絵画には特別に焼いて貰う瓦のオブジェを貼り付けた作品を描いています。

キャッチフレーズに「生きたい、行きたい、活きたい南あわじ」がありますが、文字通りのイメージであると思います。

先程まで市長さんのお話を伺っていましたが、本当にいろいろのアイデアをお持ちで、今日のお話を楽しみにしているところでございます。どうかよろしくお願いをします。

講演

はじめに



ご紹介いただきました南あわじ市長の守本でございます。去年の2月市長に就任致しました。

仙台の経済産業局長時代に東北の震災以来ずっと復興業務に関ってきました。

しかし、自治体のあり方、首長さんの取り組み方により、復興のスピードが異なるのを見て、地方自治とは、基礎自治体の市町村がしっかりとすることが必要との思いが生じ、諸事情を鑑み、市長候補への意を固めた次第です。

このことは、今日のお話にも関わってまいります。

また、先週の週末は、災害対策本部を設置して市役所に詰めていましたが、比較的被害は少なく幸いでした。広島県、岡山県、愛媛県では甚大な被害で、被害に遭われた方々に追悼の意を申し上げます。ただ、当市でもいつ我が身かという緊張感はあるところがございます。

それでは講演に移らせていただきます。

1 中央集権国家への道（1）

◆江戸時代（幕藩体制）

究極の地方自治であり、むしろ中央政府がなく、藩という独立国により構成されていた。

◆明治時代（廃藩置県）

欧米列強への対抗意識から中央集権国家が必要であった。

富国強兵（地租改正、殖産興業、徴兵制）を国主導で推進し、大日本帝国憲法には「地方自治」の章はなかった。

◆大正・昭和初期

第1次、第二次世界大戦により国家権力の増強が進展。

【国家戦略】によって国力を強めてきた。

2 中央集権国家への道（2）

◆昭和時代（戦後、高度経済成長）

○地方自治重視の流れ

GHQの考え方は、国家権力が強すぎた故の戦争であり、権力を分散させるため、地方自治改革が必要であった。

○中央集権重視の流れ

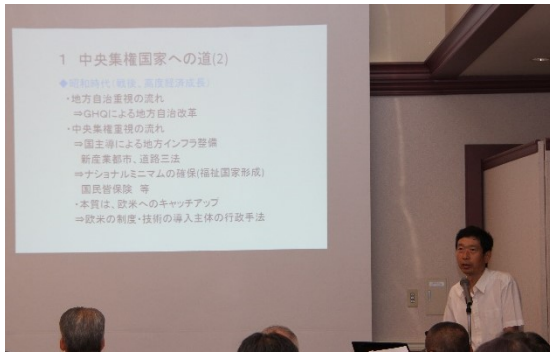
地方自治へ進む一方で中央集権重視の要請があった。

①国主導による地方インフラ整備  
新産業都市、道路三法

②ナショナルミニマムの確保（福祉国家形成）  
国民皆保険等

○本質は、欧米へのキャッチアップ

欧米の制度・技術の導入を主体とする行政手法（テクノポリス法、リゾート法等）



## 2 地方分権論台頭の背景（1）

### ◆平成時代

安定成長から低成長への移行  
見えてきた国家主導の限界

#### (1) 国家財政のタイト化と国主導政策の不発

- 円高不況、バブル崩壊、リーマンショック  
補正予算等による累次の経済対策が機能せず、景気の回復が不透明で国家財政の赤字が累積

#### ○国主導の政策の不発

- ・累次の全総計画、リゾート法の計画が進まなくなり、規制緩和による民間活力活用への移行（民間の資金活用のため国の一律規制を緩和）
- ・地方へ権限移譲というよりも責任移譲

## 2 地方分権論台頭の背景（2）

欧米を見習うキャッチアップの時代ではなくなった。

### (2)課題先進国へ

- 少子高齢化の急速な進展  
最大の要因であり、日本が最先端を行っており他に例がない。（≒年金・医療負担等社会福祉費用の膨張）
- インフラの維持コストの増大  
高度成長期に一気に整備したものが一斉に更新期を迎えることになる。
- 商店街等地域産業の衰退  
中心市街地活性化法もうまく機能せず、模倣でなく現場から独自の解決策を生み出す必要性がある。

### (3)社会構造の変化

- 重化学工業の時代から、知識産業の時代へ  
女性が労働力化し、家庭における女性の無償労働は期待できない。

こうした背景から、行政手法も変化し、

- 現場の創意工夫への期待  
一律規定では対処できないものを、地域の創意工夫で対処することができる「特区制

「提案制度」「地方創生交付金」制度を創設した。  
これによる地域の好事例を国が制度化して全国に拡大していこうとするもの。

### ○金銭給付から、現物・サービスの給付

女性の労働力化により、保育・介護を現物提供へ。

この現物・サービスの提供の担い手・調整役は地方自治体である。

## 3 南あわじ市で進める地域戦略

### (基本理念)

☆縦割り制度の執行機関から、現場の課題解決方策の企画・実施機関へ

#### (1) 地域の資産（住民、土地、文化）へのこだわり

ここでやるべき、ここならやれる事業を徹底的にやる。

例えば国からの「自殺対策協議会」の設立指導に対し、単にそれのみに拘らず、背景（経済、病気、家族等）を考慮しその関係者を協議会に入れることにより、「生活保護」「独居老人」等の対策機関ともなりうる。何枚もの看板をもって機能的に対応させる。

#### (2) 地域の人材と産業の活用と育成

行政単独でなく、住民・民間の力と協力し、共に成長していくこと。

行政に「何かやってくれ」ではなく「こういうことをやりたいので応援してくれ」に対してはしっかり対応する。

#### (3) コスト・パフォーマンスの最大化

一石二鳥・三鳥の効果がある方策を追及する。そのため、縦割りの支援策を現場で横に繋いでいくことで相乗効果を発揮する。

#### (4) 国・県・近隣自治体と連携した実施体制

好事例の全国展開という地方創生のプロセスに貢献する。

特に観光、交通は1市のみの施策では意味がなく、3市の連携が必要。観光面では島の強みを発揮する。



灘黒岩水仙郷



慶野松原の夕日



### 3 南あわじ市で進める地域戦略（事例1）

#### ◆高齢者元気活躍推進事業

高齢化率は全国の1.26倍であるが、高齢者の就労割合は38.5%で、国・県の2倍で、生涯現役がカルチャーの土地柄である。

##### 【課題】

- 高齢化の進展による医療・介護費用の増大
- 担い手不足による地域の管理や各種施設の人材不足

##### 【可能性】

- 生涯現役の土地柄
- 「働く」ことによる健康増進の効果

##### 【対策】

- 福祉施設、教育施設、観光施設等各種施設の働き方の見直しにより、地域の元気な高齢者の活躍の場を拡大し、健康寿命の増進、医療・介護費抑制につなげる。
- 今年度は、18施設で施行実施。次年度は地域の管理、民間企業にも拡大。
- 成功の鍵は、
  - ①業務の切り分けとワークシェアリングの方法
  - ②報酬システム（ポイント制度）
  - ③業務実施の確認システム
- 副次的な効果として、介護士・保育士等の負担軽減による定着率の向上や採用率の向上。  
働きやすい地域としてのアピール度の向上。

### 3 南あわじ市で進める地域戦略（事例2）

#### ◆課題解決型産業育成（ドローンの事例）

##### 【課題】

- 若者が意欲的に取り組める新産業の不足
- 市役所関連業務効率化の要請（特に人手を要する農業・水産関連業務）

##### 【可能性】

- ドローンの試験飛行が出来る場所の存在
- 若手建設業者等の意欲的な人材の存在

##### 【対策】

- 地方創生交付金活用によるドローン活用事業の育成
- 種々の農業補助金的前提となる栽培事業の確認等でドローンを活用
- 事業者の技能・技術向上に伴い、委託内容を拡大・高度化
- 市役所受託事業の実績を活用し、民間事業としての自立・成長を進める。

二点目に「ボンテラン工法」がある。

これは東北での発明で、例えば津波によるヘドロを捨てずに、それに紙の繊維を混ぜて固めてしまうという工法がある。

これをため池の修理に活用することを検討している。

### 3 南あわじ市で進める地域戦略（事例3）

#### ◆地域資源・地域課題活用型教育

今、仕事がないと同等以上の課題として、南あわじ市から子どもが小中の教育段階で流出している。

島根県の海士町では、高校を町営にして、教育に力を入れた結果、本土から生徒が流入し、若い人も増えている事例がある。

「教育のあり方」が、地域の魅力、特に子育て世代の魅力を引きつける力になる。

##### 【課題】

- 児童・生徒教育に求められる達成基準が高度化
- 教育が子育て世代の定着・吸引の大きな要因
- 地域を愛する心の育成
- 教員の資質向上（新教育課程への適応能力）

##### 【可能性】

- 身近な地域の学習課題（防災）・資産（人形浄瑠璃・史跡等）の存在
- 住民や企業の協力が得やすい環境

##### 【対策】

- 専門家・地域と共同した防災教育による「自分と周囲を守る」意識と力の養成
- 人形浄瑠璃を活用し、小中9年を通じ、「表現力」「英語力」等を総合的に育成するコアカリキュラムの作成
- カリキュラムの作成を専門家と教員の共同制作することによる教員の資質向上



人形浄瑠璃

### 3 南あわじ市で進める地域戦略（事例4）

#### ◆廃棄物の循環体系

##### 【課題】

- タマネギ、白菜の残渣が大量に出る。  
これをGAP（農業生産工程管理）により処理する必要がある。
- 下水道汚泥処理を市域外で処理を委託しており、費用が外部へ流出している。
- 水産資源の減少

糞尿、尿尿の下水処理で、海洋投棄がなくなり海が痩せている。

ちりめん



### 【対策】

- 野菜残渣処理、下水汚泥処理を堆肥化して地域内で使用する。
  - 下水汚泥を処理し、海に戻していく（市内の企業の活用）
- このような仕組みづくりを研究している。



淡路島たまねぎ



淡路島レタス

○市の諸事業の効率化etc

### ◆課題解決型の御提案を！！

- 多様な技術、多様な連携関係が生まれる時代
- 皆様の専門性を活用いただき、先導モデルとなるような取組で一緒にしたいと思います。



淡路瓦



淡路手延べそうめん

## 3 南あわじ市で進める地域戦略（事例5）

### ◆災害対策

#### 【課題】

- 山の荒廃による保水機能の低下
- 猪、鹿等による害獣被害

#### 【対策】

- 間伐による山の機能の回復  
山裾を牧場へ転換、間伐材による発電
- ほ場整備による調整池整備で治水機能の向上及び水上太陽光発電フロートシステムの設置によるコスト回収
- 地域電力設立による地域内消費及びバッテリー設置による避難者対策への使用
- ため池浚渫土による養浜事業及び海への放流による貧栄養化対策



ハモ



淡路島三年とらぶぐ

### おわりに

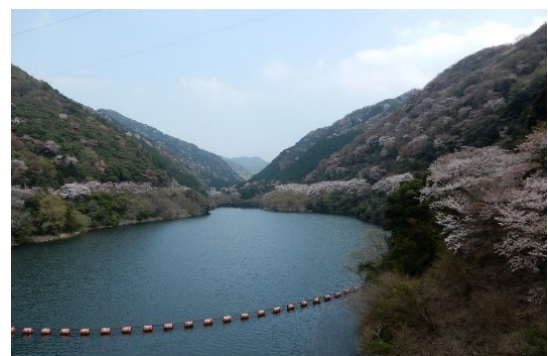
南あわじ市は、南に諭鶴羽山系があり、雨が降ると、北へ流れて洪水を起こすことになる。

山麓には、牛内ダム、大日ダム、諭鶴羽ダムがあり、諭鶴羽ダムには広い道路が整備されている。

この山にトンネルを掘り、道をつけてその道の下にパイプを通しておいて、ダムの放流の事態になれば灘方面に流す。そうすれば、ダムを常に満水にでき、ため池の水量調整も余裕をもって対応できる。

そのような話を県民局長にしたら、一笑に付されたが、将来的にはあり得るのではないかと思ったりもしている。

兵庫県が想定した、1,000年に1回の豪雨被害の想定では、700mmの降雨で5.8mの水が出る。これまでの想定とは全くレベルの違う対策を考える必要がある。



諭鶴羽ダムと桜（30.04 事務局撮影）

また、本日は気遣いいただき、南あわじの産品をいろいろお配りいただき、ありがとうございます。

どうも皆さんありがとうございました。

（注）掲載写真につきましては南あわじ市ホームページより承認を得て転載しました。

## 4 建築関係者への期待

### ◆課題は山積

- 総合的治水事業の構築
- 廃棄物の有効活用  
野菜くず、下水汚泥、生ごみ、猪鹿等
- 街並みの整備  
道路・排水・美観が揃った宅地の拡大
- 地場産業（瓦・そうめん）の振興  
瓦産業の振興とインバウンドも視野に入れた長期のまちなみづくりを
- Uターンの促進、独居老人  
Iターンの限界とUターンを促すまちづくり



事例1 関係

# 市内高齢化率と 高齢者就労状況



事例2 関係

## 課題解決型産業育成

市の取組課題を活用し、産業を誘致・育成

- ①地域製品のブランド化
  - 食品加工
  - マーケティング
  - IT
- ②インフラのメンテナンス(橋、道路、住宅等)
  - 新工法
  - i-Construction(建設現場におけるICT技術の活用)
  - 省エネ資材



事例3 関係

## 教育の充実

### 日本遺産



古事記に登場する国生み神話の伝説が色濃く残る淡路島。日本遺産にも認定されたその深みのある歴史を探求する心を養います。



### 淡路人形浄瑠璃

500年の歴史を誇る伝統芸能「淡路人形浄瑠璃」。喜怒哀楽を巧みに表現する人形浄瑠璃を、子どもの頃から経験することで、表現力豊かな子どもを育成します。



### 防災教育

南海トラフ巨大地震の発生による甚大な被害が懸念されています。阪神淡路大震災や東日本大震災からの教訓を活かした防災教育を充実させ、命の尊さ、助け合うことの大切さを学びます。

## 伝統産業



### 淡路手延べそうめん

機械での大量生産を行わず、昔ながらの手作り製法で作られています。グルテンと呼ばれるたんぱく質が多く含まれ、栄養価も豊富です。

世界遺産  
UNESCO  
淡路手延べそうめん



### 淡路瓦

淡路島の良質な粘土は瓦をつくるのに適しており、神社仏閣などの屋根に見られる「いぶし瓦」のシェア日本一を誇ります。淡路瓦は遮音性や断熱性にも優れ、第一級の屋根材として注目されています。

## 観光



### 鳴門の渦潮

徳島県との県境では、渦潮を見ることができます。約6時間ごとに起こる潮の干満により生じる現象で、一年で最も潮の干満が大きくなる春には渦が30メートルにも達します。近年、兵庫県と徳島県で鳴門の渦潮の世界遺産への登録を目指す機運が盛り上がっています。



### 淡路人形浄瑠璃

室町時代末期に百太夫という傀儡師により伝えられた、浄瑠璃と人形により演じられる人形劇です。国の重要無形民俗文化財にも指定されています。淡路人形座にて随時公演が行われています。

かいらいし



## 特産品



- 淡路島たまねぎ
- レタス
- 淡路ビーフ
- 淡路島3年とらふぐ
- 鰹(はも)
- 乳製品





講演会 会場写真

